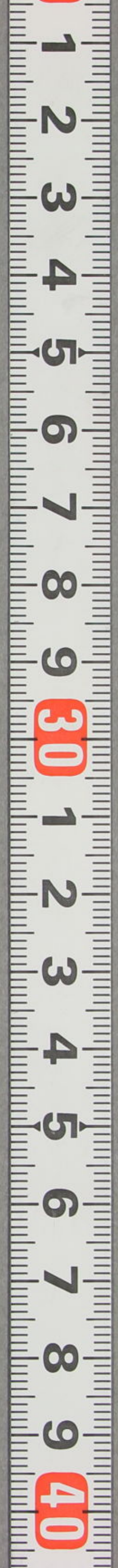
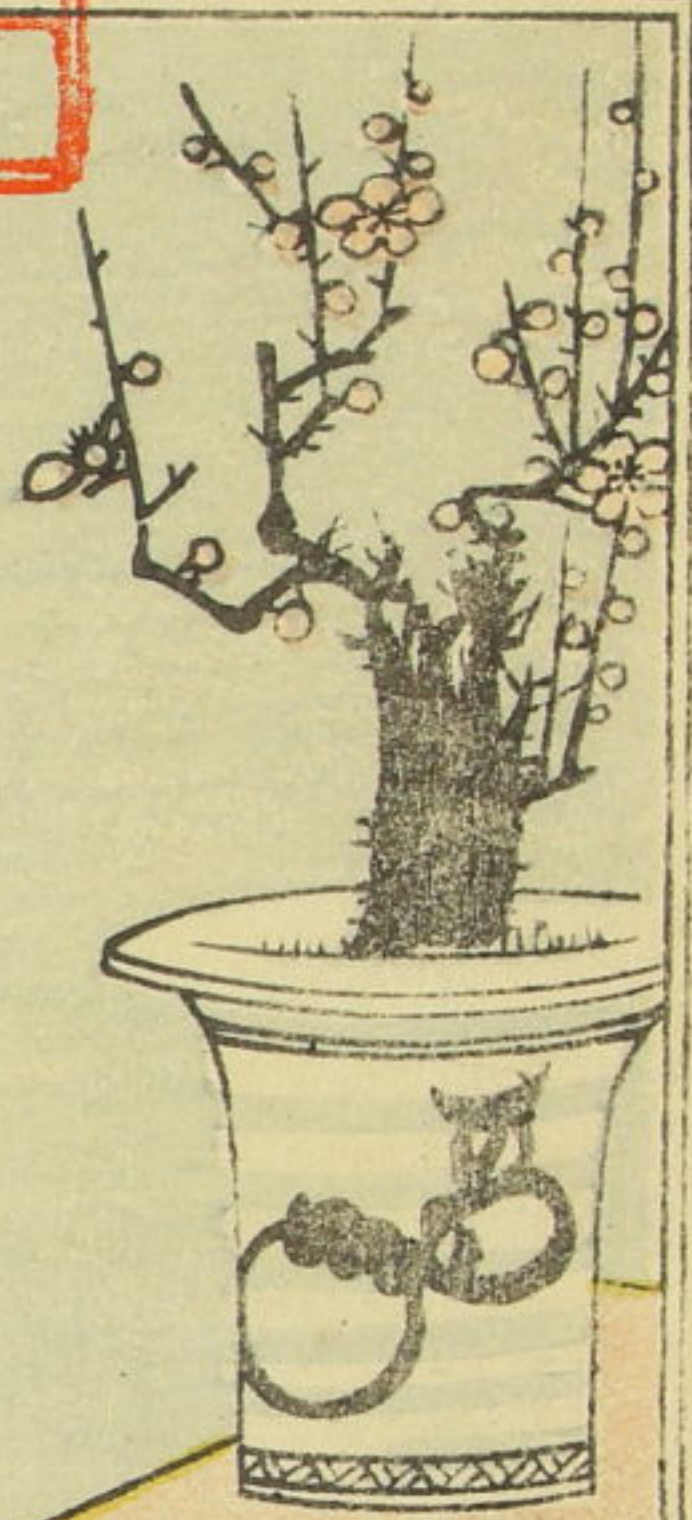


~ 13
3740
53



門 13  
 號 3740  
 卷 53



時代加賀美

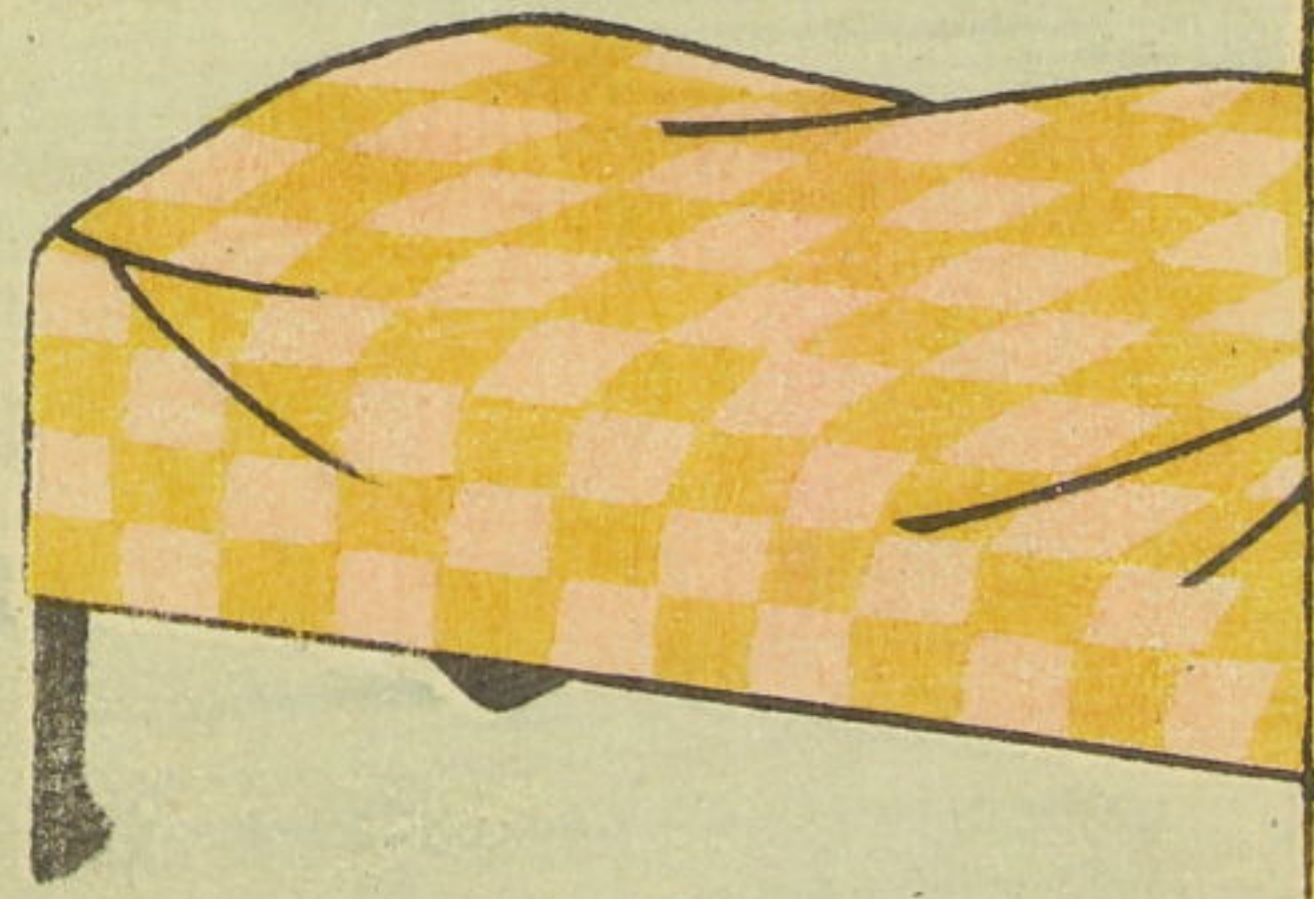
廿七集上帙

為永春水作

歌川國貞画

北雪美談

若林堂



一



人生五十年 一日の戯場のまじりど実や田の胎内哉 生出る  
 護端よ命終るの大詰す大千世界の本舞臺小善悪邪正の  
 両花道表小忠孝の看板の出せと心の樂屋このの只仕打小



大の思  
正方



由縁之元  
春辰

由縁之元  
春辰

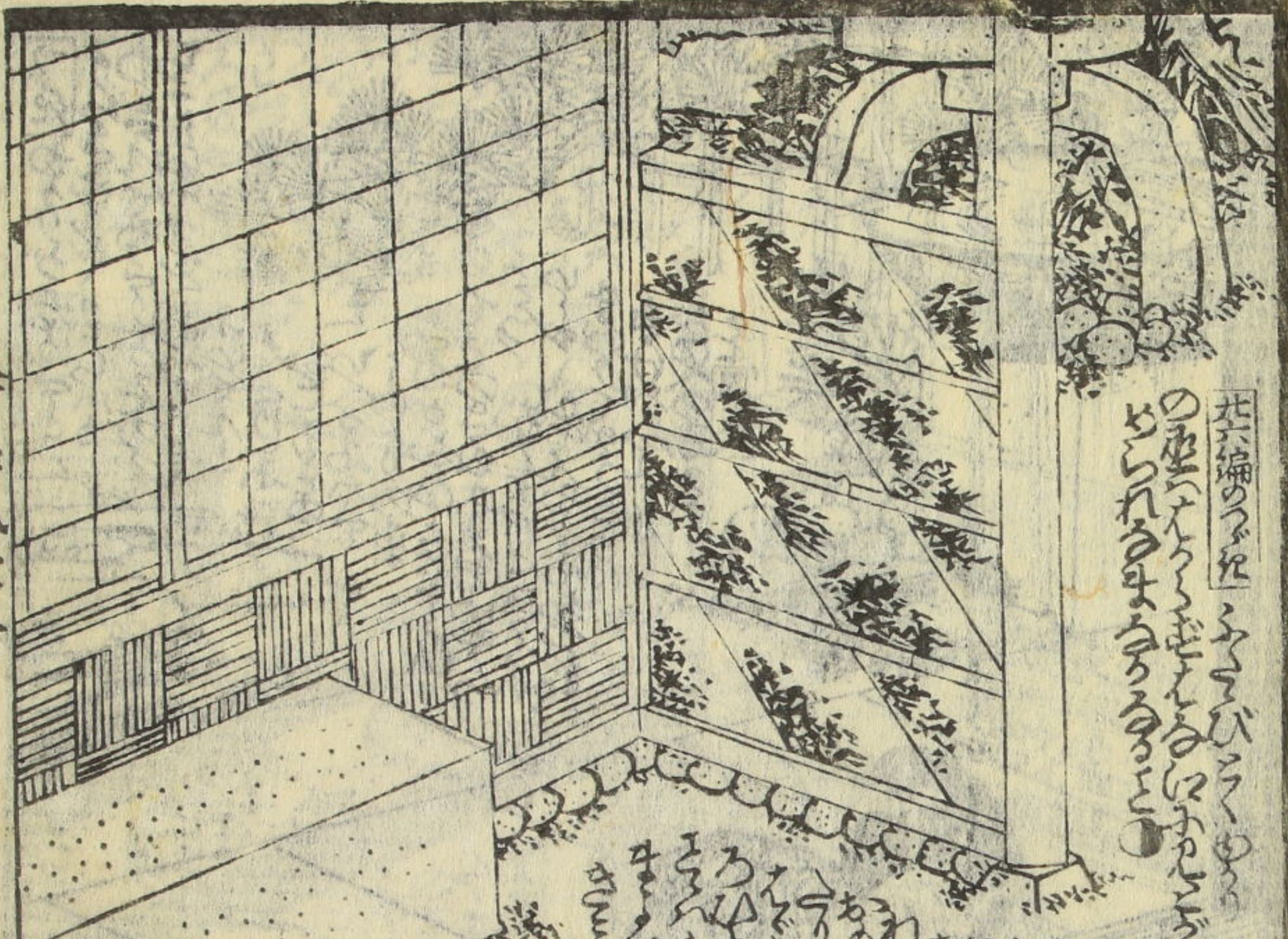
甲八十七

腹見透され謀りと思ひの外又計らうの後悔あり  
 或い手詰の金や小身售の愁歎晦日の混騰四季折くの移更  
 綿入忽地草とかなる一足飛の早替り無分別ある道行あり  
 胸小嫉妬の焼酎火介バせり出ま出世あり大願成就と歡  
 奢て次第小身上の廻舞臺小ありと月日小幕のあがる故  
 由断の大敵か寄せと盆と暮との大立廻り借るゝの立役も  
 返まといふ敵役と朝昏日夜小かり申真小浮薄の人情と天  
 道棧敷の真中より常小上覽せしごと一事も善小進む者小い必  
 餘慶を下りて悪人争う餘殃を遺るん嗚呼是戲場も教訓の  
 捷徑開成す史小演る紙合巻物の本とい名号つ

文久癸亥

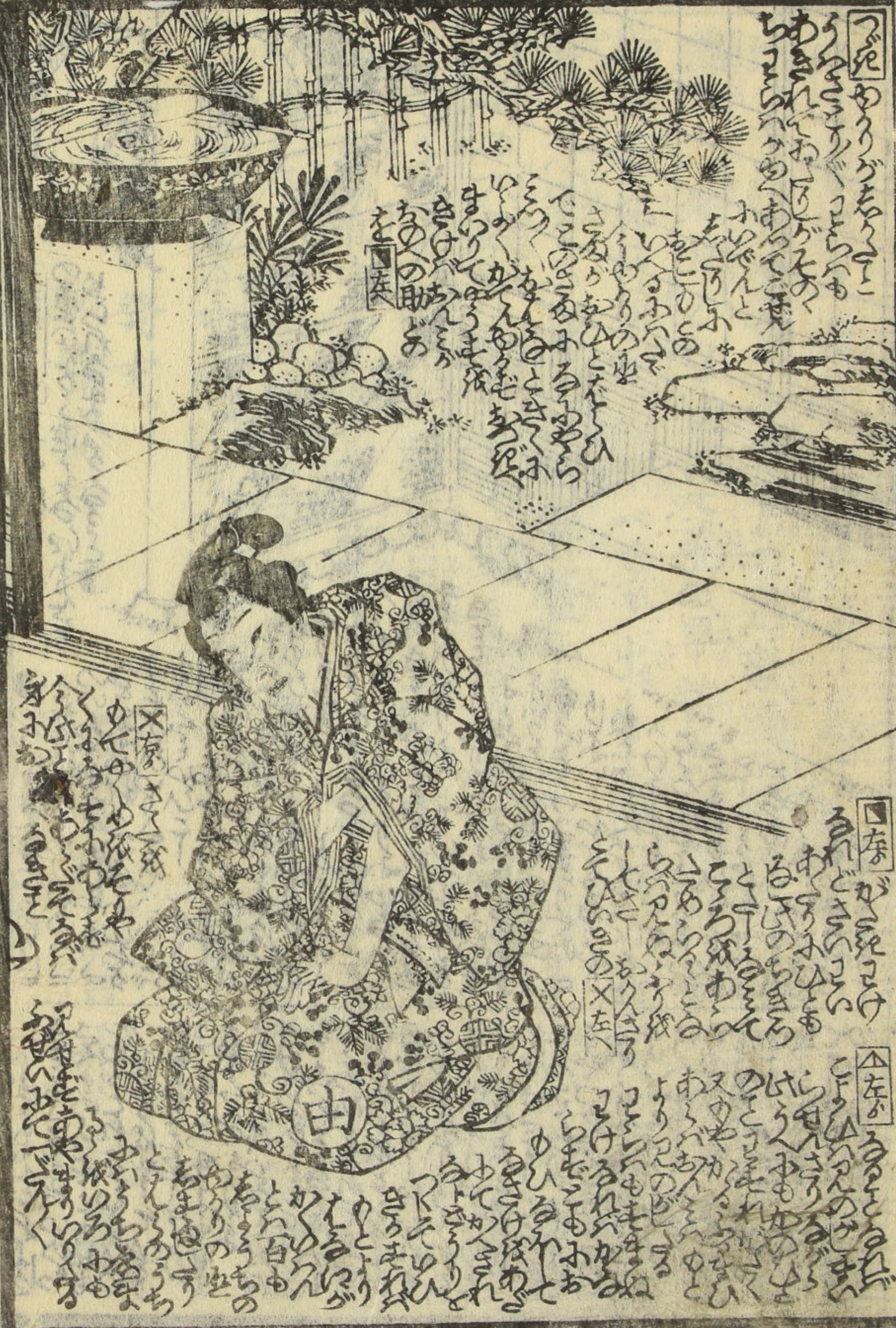
初春發行

# 為永春水誌



此編のつれづれに  
 の趣をたゞしむるに  
 いられるまじらるる

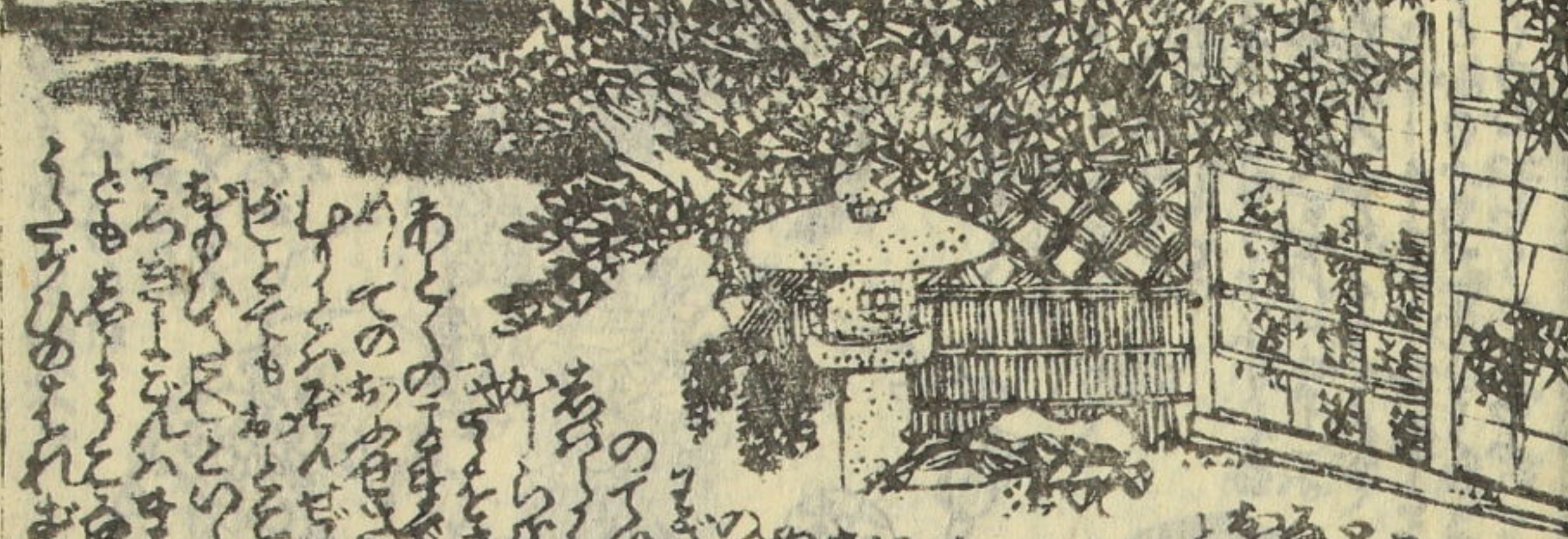
此の書も永春水の  
 名号つて  
 文久癸亥  
 初春發行



甲  
何  
カ  
七



あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに



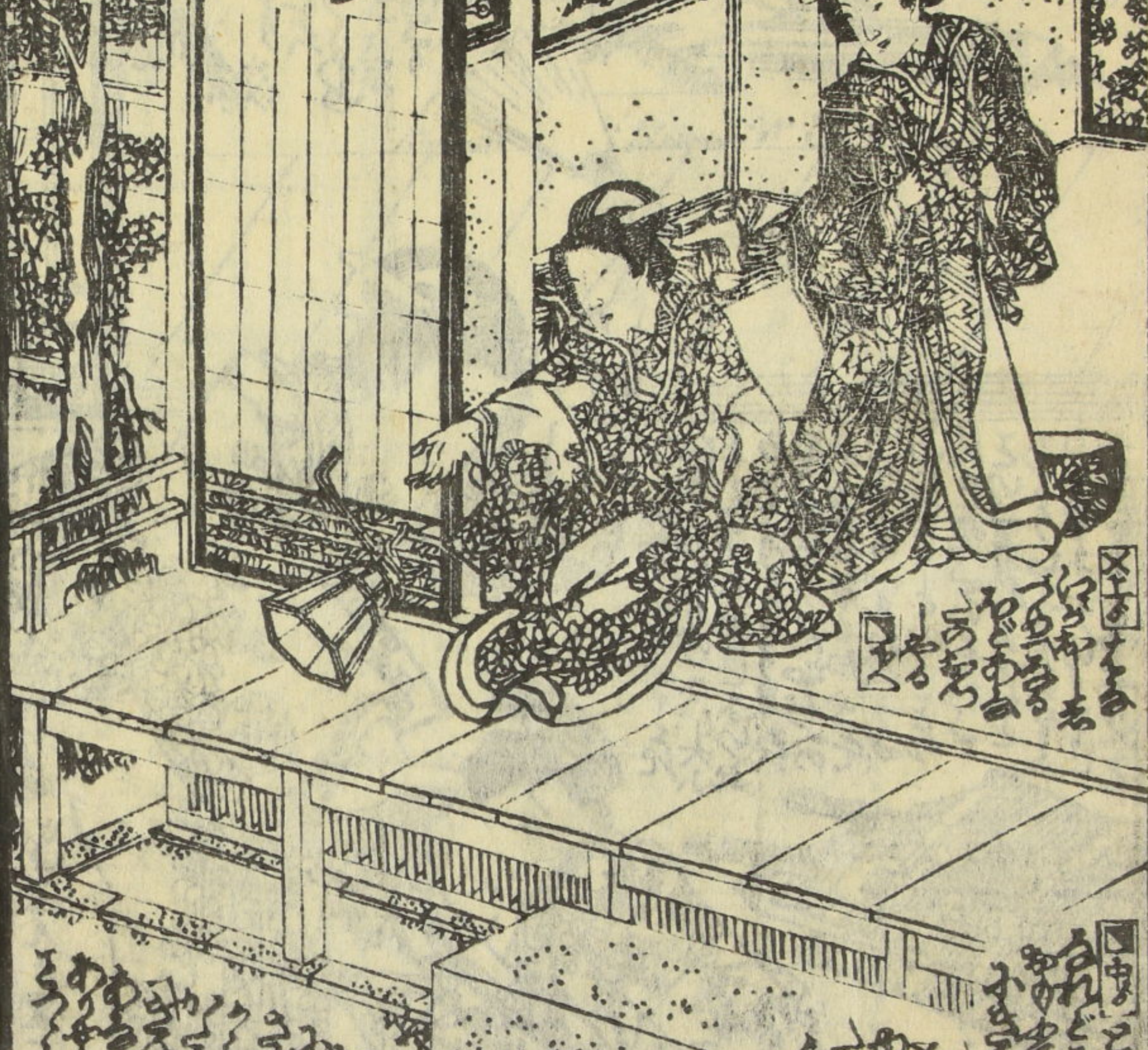
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに



あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに

寺  
下  
下  
下

あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに



あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに  
あつちのいふに

甲  
下  
下  
下











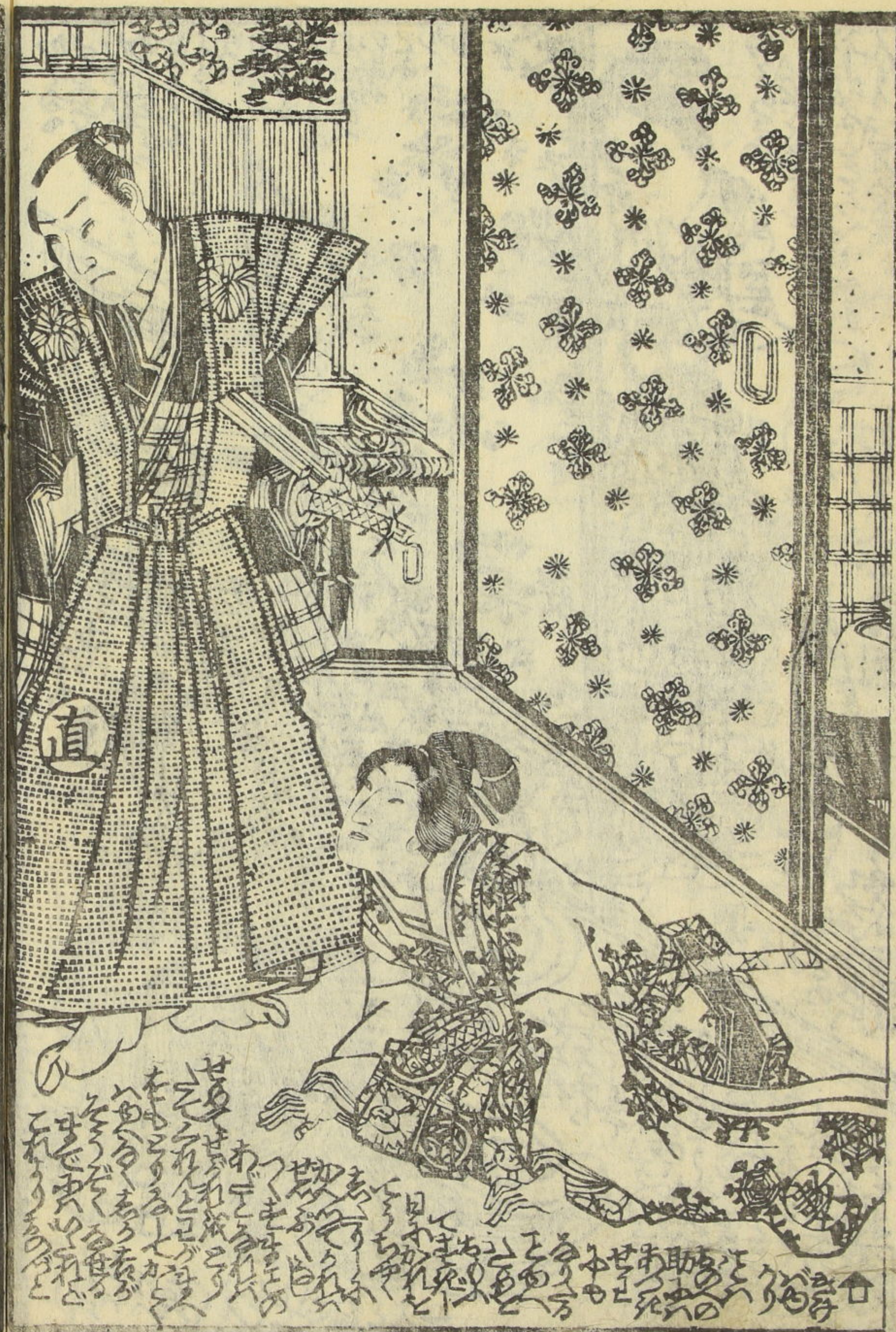
○のちとてあひ  
ついでつうあひ  
うめのみ

○ひつとてあひ  
ついでつうあひ  
うめのみ

○ひつとてあひ  
ついでつうあひ  
うめのみ

あひつとてあひ  
ついでつうあひ  
うめのみ

あひつとてあひ  
ついでつうあひ  
うめのみ



あひつとてあひ  
ついでつうあひ  
うめのみ

春水作 國貞画



つれづれ...  
あはれ...  
うしろ...  
かみ...  
あはれ...  
うしろ...  
かみ...

かれふらむ...  
あはれ...  
うしろ...  
かみ...

あはれ...  
うしろ...  
かみ...  
あはれ...  
うしろ...  
かみ...

風流画半切

越前奉書紙の描む乃所半切  
伊藤奉書紙の紙一何半切

文尚

げうふり  
うんひり  
あまぐ

一世 曲豆國百首

若葉...  
あまぐ...  
あはれ...  
うしろ...  
かみ...

あはれ...  
うしろ...  
かみ...  
あはれ...  
うしろ...  
かみ...

あはれ...  
うしろ...  
かみ...  
あはれ...  
うしろ...  
かみ...

若葉...  
あまぐ...  
あはれ...  
うしろ...  
かみ...  
あはれ...  
うしろ...  
かみ...  
あはれ...  
うしろ...  
かみ...

